



サンゴ礁は沖縄等熱帯・亜熱帯の地域経済を支えている

- ・ 地域の水産や観光資源を支え、地域文化を育み、天然の防波堤機能も持つ。
- ・ 日本のサンゴ礁の価値は少なくとも2,399億円/年とされている。

一方で、サンゴ礁は非常に脆弱な生態系

- ・ 平成27年から世界的に長期間で大規模な白化現象が進行中。日本でも、平成28年夏季に極めて深刻な被害が発生し、石西礁湖では9割以上が白化。
- ・ 今後、平均気温上昇により、白化頻度が増加し、回復力が低下し、サンゴ消滅の可能性もあり、**危機的なサンゴ礁生態系について緊急的な対策が必要**
- ・ 平成29年に**サンゴ大規模現象に関する緊急宣言**を取りまとめ



白化したサンゴ礁
(石西礁湖)



サンゴ大規模白化緊急対策会議
(緊急宣言のとりまとめ)

国際的に取り組むべき事項

- ・ 国際サンゴ礁イニシアティブ (ICRI) を積極的に推進。特にアジア地域は日本が牽引することとなっている。(欧州がアフリカ・インド洋、米国がカリブ海地域を担当。)
- ・ サンゴ礁の劣化は全球的に発生することもあり、国際的なモニタリング体制の充実は日本にとっても非常に重要。
- ・ 日本は地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク (GCRMN) に提供する**東アジア地域の情報の取りまとめ**を実施。

事業内容

- ① GCRMN東アジア地域会合等を通じて、アジア地域におけるサンゴ礁生態系のモニタリングを強化し、**東アジア地域のデータ解析を推進**し、国際的な情報共有メカニズムを発展。【拡充】
- ② それらを踏まえた保全の取組についても、各国の優良事例や課題を共有することで、各国での保全施策の推進を促進。
- ③ さらに、こうしたアジア地域における取組をICRI総会を活用し国際的にも共有。→世界的なサンゴ礁保全の促進



←ICRI第30回総会
(パタヤ)

GCRMN
東アジア会合→
(シンガポール)



国内で取り組むべき事項

- ・ サンゴ礁保全行動計画を全面的に見直し、H27年度に「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」を策定。
- ・ H32年度までに重点的に取り組む3課題「陸域由来の負荷対策」/「持続可能な観光の推進」/「人とサンゴ礁の関係性構築」
- ・ **モデル事業のより一層の強化。**
- ・ **サンゴ大規模白化現象への緊急対策を推進。**

事業内容

- ① **重点課題の地域取組体制を構築するモデル事業を推進。【拡充】**
- ② 関係者等による情報共有ワークショップを関係都県と共催。
- ③ 「**サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020**」の中間評価。【新規】
- ④ **サンゴ礁生態系保全に関するデータベースを作成し、優先的に保全すべき地域の特定及び対策の検討を実施。【新規】**
- ⑤ **国際サンゴ礁年2018の国内実施として、気候変動対策とサンゴ礁生態系保全に関する国民運動を展開。【新規】**



←サンゴ礁に重大な影響を及ぼす赤土流出